

南櫻農業生産組合（滋賀県野洲市）

組織の概要

- 大区画ほ場整備事業を契機に平成3年に集落一農場方式で設立
- 構成農家 86 戸
- 琵琶湖に配慮した「環境こだわり農産物」による「櫻味の輝」の米ブランドを立ち上げ、野洲市の学校給食にも生産物を提供している。



ドリルシーダーによる播種

生産概要

- 【作付面積】水稲：46.7ha、小麦：27.0ha、大豆：27.2ha（R6年）
- 2年3作の輪作（稲→麦→大豆）、ブロックローテーション実施
- 水稲の乾田直播にも先進的に取り組み、大区画ほ場を生かした営農体系を構築

取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- JAや普及センターなどの関係機関と連携し、現在作付けを行っている「農林61号」、「ミナミノカオリ」から製粉適正が高く実需からの要望も高い「びわほなみ」の切り替えに取り組んでいるところ。

<品種の特性に応じた栽培体系の導入>

- 「びわほなみ」の特性に応じて播種、除草、施肥体系を切り替えた
- ドリルシーダを活用し、15cm条間での播種を実施
- 乗用管理機を活用し、播種後の除草剤を粒剤から液剤の散布に変更
- 施肥体系を元肥一発から後期重点に変更し、収量の向上に寄与
- 関係機関（普及センター、市役所、JA、メーカー）を交えた検討会を実施し、次年度の栽培の改善につなげた



検討会の様子

取組成果

<需要に応じた麦種への転換>

- R5年まで「農林61号」と「ミナミノカオリ」の生産を行っていたが、実需者の要望に基づき、「農林61号」を「びわほなみ」へ全面切り替えし、「ミナミノカオリ」も順次切り替えを実施。（びわほなみ栽培面積：0ha(R5)→12.4ha(R7)）

<麦の単収の大幅な向上>

- 生産する麦を収量性の高い「びわほなみ」へ需要に応じて転換した。事業を活用して導入したドリルシーダー、乗用管理機を活用して播種間隔や施肥の改善等を実践したことで、麦の単収が190%増加した。（単収：380kg/10a(R5)→723kg/10a(R7)）

